

野党、27の1人区一本化 参院選 大筋合意、同日選を警戒
東京新聞 2019年5月20日 朝刊

参院選改選 1人区の状況		2016年 の野党獲得	戦区 指定	自民が「激 」指定	今回の構図 (対自民)
野党が新たに一本化で大筋合意した選挙区	青森	○	★	立	
	岩手	○	★	無	
	宮城	○	★	立	
	秋田		★	無	
	山形	○	★	無	
	福島	○	★	無	
	栃木			立	
	群馬			立	
	石川			立	
	山梨	○	★	立	
	長野	○	★	立	
	岐阜			立	
	三重	○	★	無	
	滋賀		★	無	
	奈良			無	
	和歌山			無	
	既におもむきで立っていた選挙区	鳥取・島根			共
岡山				立	
山口				立	
徳島・高知			★	共	
香川				無	
調整が残る選挙区	長崎			国	
	新潟	○	★	無	
	愛媛		★	無	
	熊本			無	
	大分	○	★	無	
	沖縄	○	★	無	
	富山			国	
	福井			共	
	佐賀		★	共	
	宮崎			共	
	鹿児島			国共	

夏の参院選の勝敗を左右する三十二の改選一人区を巡り、立憲民主など野党五党派がこれまでの五選挙区に加え二十二選挙区で候補者一本化に大筋合意した。焦点だった共産党候補への一本化は現時点で二選挙区。週明け以降、順次発表する。今後、残る五選挙区と、参院選に合わせた衆参同日選の可能性に備え衆院小選挙区の調整を急ぐ。関係者が明らかにした。

二十四選挙区で擁立する共産が候補取り下げを視野に柔軟路線に転じたことや衆参同日選への警戒から、競合区などの調整が加速していた。

一本化で新たに固まった二十二選挙区のうち、立民は青森、宮城、栃木、群馬、山梨、岐阜、岡山で擁立。国民民主党が石川、長野、山口、長崎で、共産は「鳥取・島根」「徳島・高知」の二合区で立てる。最終的に公認とするか無所属とするかは

各党で調整する。岩手、秋田、山形、福島、三重、滋賀、奈良、和歌山、香川は無所属候補への一本化が固まった。

既に調整のめどが立っていたのは新潟、愛媛、熊本、大分、沖縄の五選挙区。

残るのは富山、福井、佐賀、宮崎、鹿児島五選挙区。福井では共産に一本化される可能性がある。最終合意すれば、共産は二十一選挙区で候補を降ろす方針。富山は国民を軸に調整、佐賀は共産候補がいるが国民も擁立を検討中だ。鹿児島では社民党が擁立を強く主張。月内にまとめる。一本化調整をしている五党派はほかに野田佳彦前首相が代表を務める衆院会派「社会保障を立て直す国民会議」。

衆参同日選論が浮上し、先月、立民の枝野幸男代表は野党党首と相次いで会い、一人区の本化と衆院の候補者調整を確認。共産党の志位和夫委員長は今日十二日の党会合で、共産候補を降ろす条件としていた「相互支援・相互推薦」にこだわらない姿勢に転換した。

野党、参院27選挙区で一本化 32の改選1人区、調整加速
2019/5/18 23:28 (JST)共同通信社

夏の参院選の勝敗を左右する32の改選一人区を巡り、立憲民主など野党5党派がこれまでの5選挙区に加え22選挙区で候補者一本化に大筋合意した。焦点だった共産党候補への一本化は現時点で2選挙区。週明け以降、順次発表する。今後、残る5選挙区と、参院選に合わせた衆参同日選の可能性に備え衆院小選挙区の調整を急ぐ。関係者が18日明らかにした。

24選挙区で擁立する共産が候補取り下げを視野に柔軟路線に転じたことや衆参同日選への警戒から、競合区などの調整が加速していた。

甘利氏が同日選否定 参院選単独過半数は「不可能」

毎日新聞 2019年5月16日 20時20分(最終更新 5月16日 20時48分)



自民党の甘利選対委員長＝東京都千代田区で
2019年3月19日、渡部直樹撮影

自民党の甘利明選対委員長は16日、憲法改正を争点とした衆参同日選について「そういう考えを持っている人が党内にいることは承知している。ただ、安倍晋三首相が現時点で同調しているとは思えない」と否定的な見方を示した。東京都内で記者団に語った。

甘利氏はこれに先立つBSテレ東の番組収録で、衆参同日選が取りざたされることについて「衆院議員に自分の選挙だと思ってやってくれ、と火を付けるために出ているのでは」と

指摘した。

また、2013年の参院選では65議席を獲得したが、今夏については「どこまでの(議席)減で食い止めるかという選挙だ」とし、自民党単独過半数となる67議席獲得は「不可能だ。(13年は)追い風が吹いている時で、それを(超える)というのは難しい」とも語った。【竹内望】

自民・甘利氏「参院選はどこまでの減で食い止めるか」

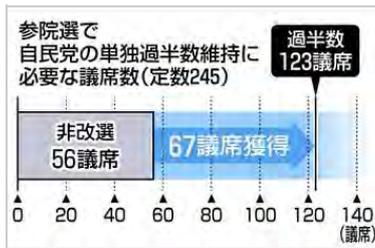
産経新聞.5.16 13:36

自民党の甘利明選対委員長は16日、BSテレビ東京番組の収録で、現行制度下で最多となる65議席を同党が獲得した平成25年の参院選と今夏の参院選を比較し、「どこまでの(議席)減で食い止めるかの選挙だ。6年前と状況が違い、あ のとき以上の状況は作れない」と述べた。

甘利氏は勝敗ラインについて「自公で安定多数」と強調し、自民党が単独過半数を獲得するのは「不可能だ」と述べた。25年の参院選について「自民党であらざれば党にあらずという追い風が吹いていた」と説明した。

参院選へ 思惑交錯 単独過半数は「不可能」自民・甘利氏

東京新聞 2019年5月17日 朝刊



自民党の甘利明選対委員長は16日、BSテレ東番組収録で、夏の参院選で、2016年の参院選後に27年ぶりに回復した単独過半数を維持することは「不可能だ」と語った。自民の単独過半数維持には67議席以上を得るのが条件となる。

(村上一樹、横山大輔)

参院選は三年に一度、行われ、半数が改選される。今年の定数は三増えて二四五となり、単独過半数を維持するには百二十三議席が必要となる。

自民党の非改選(一六年参院選で当選)は五十六議席。そのため、六十七議席以上を獲得すれば、単独過半数は維持される。

甘利氏は、自民党が民主党(当時)から政権を奪還した翌年に行われた一三年参院選で獲得した六十五議席について「これ以上、取れないぐらいの数字だ。安倍内閣ができて半年後の選挙で、民主党政権では日本がどうにもならないと、自民公認というだけで当選した」と指摘。それを上回る六十七議席は「不可能」と分析した。その上で「不謹慎な言い方だが、どこまでの議席減で食い止めるかだ」と語った。

甘利氏はこの後、改選される百二十四議席の過半数に当たる六十三議席の確保も「至難の業」と記者団に語った。

野党「一本化」なら勝機 参院1人区 自民指定の16激戦区 東京新聞 2019年5月15日 朝刊

夏の参院選に向けて、自民党は全国三十二の改選一人区のうち、苦戦が予想される十六選挙区を激戦区に指定し、てこ入れを図っている。二階俊博幹事長は激戦区を中心に地元入りし、経済界と懇談するなど、支持基盤の強化に余念がない。一方、野党側は、安倍晋三首相が衆参同日選に打って出る可能性があるかと判断。参院選の勝敗を左右する一人区での候補者調整を加速させている。(横山大輔、村上一樹、木谷孝洋)

「参院選が近く行われる。自民党が圧勝できるよう、みんなで奮起しよう」。二階幹事長は十三日、東京都内で行われた石破派の政治資金パーティーで、結束を呼び掛けた。

自民党は統一地方選と参院選が同じ年に行われた二〇〇七年以降の参院選などの結果を分析。さらに四月の統一地方選の結果を踏まえ、激戦区を決定。選挙資金を優先的に割り振るほか、応援演説に力を入れる。

選挙区	自民 公明		立憲民主 旧希望	
	自民	公明	共産	社民
青森	294160		271155	
岩手	246120		343038	
宮城	468032		474892	
秋田	253897		245172	
山形	272615		289878	
福島	382787		465949	
山梨	194395		200653	
新潟	543877		585461	
長野	390375		584220	
三重	393658		401717	
滋賀	281896		280420	
徳島・高知	288925		279563	
愛媛	302567		243311	
佐賀	198576		183218	
大分	251128		272446	
沖縄	249562		325983	

与野党の16激戦区と2017年衆院選での比例得票

※旧希望は現在、国民民主党などに分かれている

これに対して、立憲民主党、国民民主党、共産党、社民党の四党は候補者調整を急ぐ。野党四党は四月下旬、衆院選小選挙区で候補者一本化に向けた協議を始めるほか、参院選一人区の候補者調整を急ぐことを確認した。

共産党は今日十二日、一人区の候補者一本化について、柔軟に対応する方針を示し、野党共闘に向けた機運は高まりつつある。ただ、野党四党が事実上、一本化で合意したのは愛媛、熊本、沖縄、新潟の四選挙区のみ。滋賀と福島でも調整が進む。

野党が一六年参院選のように、すべての一人区で候補者を一本化した場合、自民党が指定した激戦区の結果はどうか。

本紙は直近の国政選挙である一七年衆院選比例代表で、自公両党の合計と、立民、旧希望、共産、社民の四党の合計をそれぞれ比較した。小池百合子東京都知事が率いた旧希望の党は一部を除き、民進党と合流して国民民主党になった。

その結果、十選挙区で野党の合計が自公を上回り、ほかの五選挙区でも自公に対し九割以上の得票となった。ただ、野党の票をばらばらに計算すると、自公に遠く及ばない。

しんぶん赤旗 2019年5月13日

日本共産党第6回中央委員会総会（5月12日開催）での志位和夫委員長の幹部会報告から

...

参議院選挙の目標と構えについて

つぎに参議院選挙の目標と構えについて報告します。

情勢を大局でどうとらえるか——日本の命運がかかった歴史的な政治戦

まずのべたいのは、情勢の大局的なとらえ方と参議院選挙の歴史的意義についてであります。

参議院選挙にむかう今の情勢をどうとらえるか。

私は、情勢を大局でとらえるならば、国民のたたかいによって、安倍政権があらゆる面で追い詰められており、政治を変える希望は大いにあることを強調したいと思います。消費税10%への増税について、景気の悪化と国民の批判を受けて、政権・与党の中からも実施見送り論が出されるなど動揺が始まっています。憲法9条改定についても、安倍首相の思惑通りに事が運んでいません。原発にしがみつく政治は、原発輸出が惨めに大破綻し、コスト高騰でも行き詰まっています。沖縄の新基地建設に対して、衆院沖縄3区補選で“トドメの審判”がくだされました。「ウソと忖度（そんたく）の政治」がさまざまな形で噴き出し、国民の強い批判を招いています。そして、これらの国政の主要争点のどの問題でも、あらゆる世論調査で、安倍政治への反対が多数となっています。国民の世論と運動が、安倍政権を追い詰めてきた。ここに深い確信をもとうではありませんか。

同時に、情勢の反動的打開の危険を直視することが必要であります。安倍首相は、5月3日、憲法記念日に、日本会議系の改憲集会へのビデオメッセージで、「2020年を新しい憲法が施行される年にしたい」とのべました。首相側近の萩生田自民党幹事長代行は、9条改憲について、「（首相が）発信してもダメ、静かにしてもダメだったら、もうやるしかない」「新しい時代になったら、少しワイルドな憲法審査をすすめていかなければならない」と言い放ちました。安倍政権が国会での絶対多数を背景に、官僚組織やメディアにも強い支配力をもっていることを、直視しなければなりません。

行き詰まった安倍政権に退場の審判をくだし情勢を前向きに打開するか、反動的打開を許すか。参議院選挙は、まさに日本の命運がかかった歴史的な政治戦となります。参議院選挙を、市民と野党の共闘の勝利、日本共産党の躍進で、「安倍政治サヨナラ」の審判をくだし、希望ある新しい政治の扉を開く選挙にしていこうではありませんか。

参議院選挙にむかう市民と野党の共闘の現状と方針について
参議院選挙にむかう市民と野党の共闘の現状と方針について

て報告します。

私たちは、3中総決定で、「自民・公明とその補完勢力を少数に追い込む」ことを、わが党としての参院選の目標として確認しています。この目標を一貫して堅持して参議院選挙をたたかいていきます。

それをやりきる大きなカギの一つが、市民と野党の「本気の共闘」の成功であります。わが党は、昨年来、安倍政権打倒をめざし、全国32の1人区のすべてで野党統一候補を実現し、勝利をかちとる態勢をつくるために力をつくしてきました。

野党候補の一本化にあたって、わが党は、「一本化にあたっては、お互いに譲るべきは譲り、一方的対応を求めることはしない」、「単なる一本化にとどまらず、みんなで応援して、勝利をめざす」、「政党内で政策協議を加速させ、共通政策をつくる」、「政権問題での前向きの合意をめざす」——四つの原則的立場を表明していますが、この立場で最後まで力をつくします。「5月の連休明けの早い時期に決着をめざす」ことが野党間での合意であり、早期に32の1人区のすべてで野党統一候補を実現するために全力をつくします。

野党候補の一本化の合意が実現した場合、わが党が擁立した候補者で一本化が実現した選挙区では、共闘の輪を広げ、必勝のために責任をもってたたかいていくことは当然であります。他の野党が擁立した候補者で一本化が実現した選挙区、無所属候補で一本化が実現した選挙区では、それぞれの選挙区の実情をふまえて、「みんなで応援して勝利をめざす」という立場で全力をあげます。

市民と野党の共闘にこそ政治を変える希望があります。安倍政権の暴走を支えている国会での絶対多数を打ち破るには、野党が力を合わせる以外に道はありません。

この共闘は、もともと安保法制＝戦争法に反対する国民・市民のたたかいのなかから生まれたものでした。それを前進させ、成功させる原動力は、国民・市民のたたかいにこそあります。参議院選挙にむけ、消費税10%中止を求める運動、安倍9条改憲反対の3000万人署名、原発ゼロをめざす運動、辺野古新基地を許さないたたかい、安保法制＝戦争法廃止の運動など、あらゆる分野での国民運動を発展させることが重要であります。

安倍政権を打倒し、希望ある新しい政治をつくるという大義に立って、市民と野党の「本気の共闘」を成功させるために、知恵と力をつくそうではありませんか。

...

...

早期の解散の可能性——総選挙にのぞむ方針について

総選挙にのぞむ方針について報告します。

安倍政権が、追い詰められて早期の解散・総選挙に打って出る可能性が生まれています。そうなった場合には、正面から受けて立ち、衆議院でも自民・公明とその補完勢力を少数に追い込み、野党連合政権に道を開く選挙にするために全力をあげ

ます。

衆議院選挙の予定候補者の擁立を進めます。中央として比例代表予定候補者の第1次分を発表しました。小選挙区では、与野党が競り合っているところを中心に、相互主義の立場で、野党候補一本化の協議を開始していきますが、現在の選挙制度のもとでわが党が比例代表で伸びるうえでも、小選挙区に一定数の候補者を擁立することは絶対に必要となります。中央と相談しつつ予定候補者の擁立を進めていただきたいと思います。

...